

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0865
 住 所 川崎市川崎区千鳥町10番1号
 氏 名 日本合成樹脂株式会社
 代表取締役社長 森 信之 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日本合成樹脂株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区千鳥町10番1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	18	プラスチック製品製造業 (別掲を除く)
主たる事業 の内容	石油樹脂製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,623	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 5,398	(実) 5,784	(実) 5,559	(実) 2,933	(実) 5,955
	(調) 5,398	(調) 5,784	(調) 5,559	(調) 2,933	(調) 5,955
削減率		(実) -7.2 %	(実) -3.0 %	(実) 45.7 %	(実) -10.3 %
		(調) -7.2 %	(調) -3.0 %	(調) 45.7 %	(調) -10.3 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	生産量				原単位等の単位	KL/t
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値	
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)		
排出量原単位等の値	0.2248	0.2346	0.2426	0.2891	0.2181	
活動量の値	13107	13397	12680	5614	-	
排出量原単位等の削減率		-4.4 %	-7.9 %	-28.6 %	3.0 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	外部原料使用量増加のため、成分調整に要する精密蒸留運転日数が増加しているため、燃料、電力、スチームの使用量増加に繋がってしまった。 2019年度稼働予定の冷凍機(省エネタイプ)を、2021年度稼働に変更した。	
第2年度	エネルギー使用の全体量は減っているが、装置トラブルによる停止期間が増えた事によるものが主なため、減産となった結果、原単位当たりでは悪化している状況となった。	
第3年度	定期修理、火災事故等による計画外停止期間が長くなり、減産となった事で原単位当たりが悪化した。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		排出量自体の減少は、計画外停止期間が長くなったため、計画的な削減からは逸脱してしまった。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		現状仮復旧状態では、原単位悪化となり目標達成は難しいが、本復旧工事終了後は、新型冷凍機の効果と合わせて、改善していけるものと思われる。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>(1) 冷凍機の省エネタイプへの更新・運転開始 (2) LED照明への継続的な切り替え (3) 装置稼働に合わせた加熱炉運転方法の確立 (4) プロセス配管保温の劣化に対する計画補修の継続 (5) 装置停止中の不要エネルギーの停止継続</p>
<p>第1年度</p>	<p>(1) 冷凍機設置工事の遅れと在庫量減少のため、2021年6月以降の運転開始とした。 (2) LED照明への継続的な切り替え実施 (3) 装置稼働に合わせた加熱炉運転方法の確立（負荷に合わせたバーナー選択） (4) プロセス配管保温の劣化に対する計画補修の継続実施 (5) 装置停止中の不要エネルギーの停止継続実施</p>
<p>第2年度</p>	<p>(1) 新型冷凍機は、2021年7月の運転開始とした。 (2) LED照明への継続的な切り替え実施 (3) 装置稼働に合わせた加熱炉運転方法の確立（負荷に合わせたバーナー選択） (4) プロセス配管保温の劣化に対する計画補修の継続実施 (5) 装置停止中の不要エネルギーの停止継続実施</p>
<p>第3年度</p>	<p>(1) 新型冷凍機は、2021年7月運転開始からの安定運転実施。 (2) LED照明への継続的な切り替え実施 (3) 装置稼働に合わせた加熱炉運転方法の確立（負荷に合わせたバーナー選択） (4) プロセス配管保温の劣化に対する計画補修の継続実施 (5) 装置停止中の不要エネルギーの停止継続実施</p>
<p>計画期間における取組の評価 （第3年度の報告時に記載）</p>	<p>3年目の評価年に、火災事故等による計画外停止が長引き、冷凍機取り換えの評価等が出来なくなりました。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	(1) 森林保全活動への参加 (2) 一般廃棄物削減活動 (3) 産業廃棄物の削減(乾燥不良及び雨水混入等の回収) (4) 不合格品の削減活動
第1年度	(1) 森林保全活動への参加(雨天のため中止) (2) 一般廃棄物削減活動 ・社内5S活動による廃棄物量が増えて削減目標未達 (3) 産業廃棄物の削減(乾燥不良及び雨水混入等の回収) 目標未達 ・外部原料使用比率増加のため、触媒使用量が増加し中和剤の廃石灰排出も増加 ・削減活動は継続したが、処分先の受け入れ不可期間が有り、期ずれとなり増加 (4) 不合格品の削減活動目標未達 ・定期修理後のスタートアップ時、設備トラブルが発生し不合格品が増加
第2年度	(1) 森林保全活動への参加(コロナ感染防止により中止) (2) 一般廃棄物削減活動 ・社内収集量の積算方法が見直され目標未達。目標の見直しを実施 (3) 産業廃棄物の削減(乾燥不良及び雨水混入等の回収) 目標達成 ・廃石灰排出目標達成 (4) 不合格品の削減活動目標未達 ・設備トラブルが多発し停止、スタート時の不合格品が増加
第3年度	(1) 森林保全活動への参加(コロナ感染防止により中止) (2) 一般廃棄物削減活動 ・収集量削減されていた。 (3) 産業廃棄物の削減達成したが、停止期間の長期化による。 (4) 不合格品の削減活動目標未達 ・火災事故等による緊急停止からの立ち上げ等による。

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	5,398 t-CO ₂	5,784 t-CO ₂	5,559 t-CO ₂	2,933 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	2,946 KL	3,143 KL	3,075 KL	1,623 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
日本合成樹脂株式会社	川崎市川崎区千鳥町10番1号	5,398	5,784	5,559	2,933

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度